



3.3

2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。

3.6

2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。

奥野 健太郎

歯学部

高齢者歯科学講座

閉塞性睡眠時無呼吸に関する検査方法や治療方法の新規開発で道路交通事故の減少に貢献

睡眠時無呼吸は睡眠中に呼吸が弱くなる（もしくは停止）のために体内の酸素濃度が下がる状態をいいます。なかでも、上気道が閉塞し、胸・腹部の呼吸が弱くなる閉塞性睡眠時無呼吸に関する検査方法や治療方法の新規開発について研究しています。日本では全国で200～300万人が症状があると言われていますが、実際に治療をしているのはごくわずかです。

閉塞性睡眠時無呼吸は、夜間の睡眠の質が悪くなり、日中の眠気や集中力の低下から、交通事故の原因になることが知られています。この閉塞性睡眠時無呼吸を歯科的に検査・治療をすることで、道路交通事故の減少に貢献できればと考えています。



message

将来の社会をしょって立つ若者に対して、歯科医学という学業、歯科臨床という診療、医学研究などにSDGsの考えを盛り込み、世界に貢献できる持続可能な歯科医療を共に作り上げていきたいと考えています。